

# 日本テクノ

## Check

### 創業 40 周年を迎え、新たな事業領域に挑戦

今年で創業40周年を迎えた日本テクノは、水・環境問題に直面するアフリカ諸国を中心に、成長を続けるアジア、中東、中南米へと事業展開地域を拡大し、これまでコンサルティング・サービスを提供した国は50数カ国に上る。創業以来、一貫して基軸を置くサービス分野は、住民の生活に欠かせない飲料水の供給や水資源の開発で、調査から計画立案、設計、実施監理、さらに運営・維持管理体制の構築まで、上流から下流までのきめ細かいコンサルティングに特長がある。

最近の大きなトピックは、2015年1月に日本水工設計(株)のグループ企業になったことだ。日本水工設計は国内上下水道分野でトップクラスの実績を持ち、海外事業の増強にも意欲的な同社と、都市部の上下水道事業への本格的な進出で事業の分野と規模の拡大を目指す日本テクノの戦略が融合したといえる。今後は両社の技術交流を促進するとともに人材育成でも協調する方針で

ある。採用では、引き続きエンジニアリング系と社会科学系のテクニカル・スタッフを毎年募集しており、上下水道分野の技術者のほか、社会科学系については経済・財務分析、事業運営・維持管理などの実務経験者、さらに民間投資分野に知見と応用力を持つ人材を求めている。



### company data

日本テクノ株式会社  
Japan Techno Co., Ltd.  
〒104-0054 東京都中央区勝どき3-12-1  
フォアフロントタワー7F  
海外事務所：ダカール(セネガル)、ルサカ(ザンビア)  
設立：1976年6月 資本金：8,600万円  
従業員数：40人(2016年6月1日現在)  
代表者：代表取締役社長 金井重夫/代表取締役副社長 高松章二  
事業分野：水資源開発/造水、都市上下水道/地方給水・衛生、環境/再生可能エネルギー/廃棄物、社会開発など

### recruitment

新卒採用：あり(不定期) 中途採用：あり  
募集職種：テクニカル・スタッフ(エンジニアリング系専門職/社会科学系専門職)  
募集人数：若干名  
TEL：03-6703-0510 FAX：03-3534-6773  
E-mail：jat-tyo@jat.co.jp  
URL：http://www.jat.co.jp/

### Career Path

- Age 22 関西大学法学部法律学科(国際コース)卒業後、米ピッツバーグ大学大学院(経済社会開発コース)留学
- 25 同大学院修士課程修了、現地の日系企業でパートタイム勤務を経て、モザンビークでNGOのボランティアとして活動
- 28 JICAモザンビーク事務所の現地職員として調査業務などに従事
- 29 在モザンビーク日本大使館外部委員(草の根・人間の安全保障無償資金協力担当)
- 35 日本テクノ入社

るチャンスを探り続け、JICAモザンビーク事務所や現地日本大使館で調査業務に従事する貴重な機会を得ました。こうした一連の経験を通じて、コミュニケーション開

発などの専門性を深めていくことができました。今後は領域にこだわらず、経験したことのない分野にも知見を広げて、もうひとつ自分の柱を作りたいと思っています。



モザンビークの女性たち(右端が岡根さん)

JAT

技術本部プランニング室  
副主任研究員

岡根 史佳さん  
(40歳)  
Okane Fumika

## 地域住民との触れ合いを通して

入社して5年間、アフリカの村落給水分野を中心に業務経験を積んできました。現在は国際協力機構(JICA)の技術協力案件であるモザンビークの「ニッサ州持続的給水・衛生改善プロジェクト」に従事し、ソフト分野の担当として、ハンドポンプ給水施設の維持管理体制の構築、先方の州・郡行政担当者のマネジメント能力の強化トレーニングなどを実施しています。

給水施設の維持管理については、消も用品であるスベアパーツの流通体制整備・確立に加え、施設の利用者たちのオーナーシップを尊重しながら住民による水管理委員会の組織化を図り、透明性にも留意しながら、水料金の徴収・積み立てシステムを構築していきます。その積み立て金をメンテナンスに使用し、持続可能な形で給水施設を利用していただけるのです。なぜ組織化や料金の徴収・積み立てが大切なのか、集会や戸別訪問を丹念に繰り返し、住民が理解するまでとにかく話し合うという人間的な触れ合いの多い仕事であり、そこにやりがいを感じます。ザンビアの無償資金協力や技術協力プロジェクトでも同様の業務を経験しており、ようやく専門分野のひとつを持てたという思いです。

開発協力に進んだ出発点は、学生時代に「海外で仕事したい」という思いが膨らんだことでした。特に開発途上国の問題に取り組みたいと漠然ながらも目標ができました。そこで米国に留学して英語を磨きながら、大学院で途上国問題を研究し、その間に現地NGOのインターンとして、ワークショップや全米のNGOネットワークづくりなどを手伝えました。職務経験がない私にとって、このインターンは社会経験と実績づくりの機会になったと思います。

大学院修了後は途上国の現場で経験を積むための費用をパートタイムで稼ぎ、モザンビークでNGOのボランティア活動をしながら開発の世界に進む夢を実現す